

聖母の被昇天

2013.8.11

ルカ 1・39-56

今日の主日のミサを今年には特別な許可をいただいて、8月15日の聖母被昇天の祭日の典礼に従っておささげしています。私たちの高円寺教会では、今年は耐震補強工事の最中なので、8月15日の聖母被昇天のお祝い日に、皆で集って聖母被昇天のミサをおささげすることが出来ないからです。その分心を込めて、今日のミサを私たちの天の母である聖母とともに、聖母の取次ぎを願いながら御一緒におささげしたいと思います。

典礼的に言えば、年間のすべての主日のミサは、私たちの日々の中で、主イエス・キリストの復活を祝い、主の復活によって私たちにもたらされた大いなる恵みに感謝するミサです。主イエス・キリストによってもたらされた大いなる恵みとは、主イエス・キリストを救い主と信じ、その御あとに従って生きる者たちに約束されている、十字架の死を超えて復活された主イエス・キリストの復活のいのちに与る希望です。この世の苦しみの多い生活の中で、年間のすべての主日ごとに、主イエス・キリストへの信仰によって与えられているこの希望を新たにするために、主の十字架の死と復活を記念し、その信仰を新たにするミサを私たちはささげ続けます。今日祝う聖母の被昇天の祭日は、そのような私たちの、主イエス・キリストの復活のいのちに与る信仰と希望を特別に新たにし、強めてくれます。被昇天の聖母は、主の十字架のもとに留まり続け、御子の苦しみをともに苦しみ、そのことによって、十字架の死を越えて復活された御子イエス・キリストの母として、私たちの天の母となられた聖母だからです。被昇天の聖母は、苦しみの中にある私たち全ての者に、その身をもって、復活への希望を保証してくださる私たちの天の母だからです。

聖母マリアの被昇天の祭日が8月15日に全世界の教会で祝われるようになったのは、第二次世界大戦の後、教皇ピオ12世によって、聖母の被昇天が全世界のカトリック信者にとって信じるべき信仰の教えとしてあらためて宣言され、この日が聖母被昇天の祭日として定められてからのことです。聖母マリアがすべての信じる者たちの母であり、聖母マリアはその御子イエスとともに、私たちの母として天の御父の栄光の中にいてくださるといふ信仰は、古くからの教会の信仰の伝統です。その信仰があらためて聖母の被昇天として全世界のカトリック信者にとって信ずべき信仰の教義として宣言され、私たちの日本がその中に巻き込まれ、責任を負うべきアジアにおける戦争が終結したこの日が聖母

の被昇天の祭日として定められたことは、日本のカトリック信者である私たちにとって特別に意味のあることです。

聖母の被昇天の祭日は私たちの心の目を天に向けさせます。同時に、天に向けたその目をもって、この地上の私たちの世界に目を向けさせます。聖母の被昇天の祭日が8月15日に定められた意義はそこにあります。あの悲惨な戦争がもたらした無残な廃墟の中でささげられた被昇天の祭日のミサのことを思います。そのミサに集ることのできた人々の心の中にどのような思いがあったのか、私たちには軽がるしく想像することも出来ません。けれども、そのミサの中で聖母は御子イエスの十字架のもとに寄り添ったように、その人々とともにいてくださったのです。そのようにしてその人々が、そのミサの中で祈った祈りが、あの戦争の犠牲となった全ての人の魂の叫びと結ばれたものとなるように祈ってくださったのです。その聖母のお姿が今日祝う被昇天の聖母のお姿です。

今日聖母の被昇天を祝うこのミサの中で、私たちの天の母である聖母が私たちの祈りに寄り添ってくださることを信じ、願い求めたいと思います。私たちの天の母である聖母がともに祈ってくださることによって、私たちがこのミサの中で祈る祈りが、あの戦争を経験した人類がささげるべき真の祈り、真の魂からの叫びとなって、十字架の死を越えて全能の父なる神の右の座に着いておられる、私たちの主イエス・キリストのもとに届きますように。聖母とともにこのミサをおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池 好高